

年間第3主日
マタイ 4・12-23

2014.1.26 9:30 ミサ
オリビエ・シェガレ
(パリミッション会司祭)

洗礼者ヨハネが捕まり、憧れていた師を失ったイエスは孤独を感じたでしょう。イエスが故郷に戻り、ヨセフとマリアと一緒に家にとどまり、しばらく大工である父親の仕事のお手伝いしていたでしょう。しかしヨハネから洗礼を受けた時に燃えていた自分の心、神から愛されている実感、天が開かれ、聖霊が下ったという体験を忘れていませんでした。神に呼ばれていないか。どうしたら神の呼びかけに応えうるか。どうしたら神の愛を人々に伝えられるか。こうして自分の心に問いながら、イエスはやがてナザレの故郷を離れ、一人で、暗闇の地と言われていたガリラヤ地方に退かれ、カファルナウムという辺境の町に住み着き、福音を述べ伝えはじめました。エルサレムの近くに拠点を作り、都会の人に向かって厳しい神の裁きを告げ知らせていた洗礼者ヨハネと対照的に、イエスは多くの異邦人が交えている遠い、貧しい東北の地方の人々に、悔い改めを呼びかけながら、救いである天の国が近づいたという希望と喜びの福音を伝え始めます。ガリラヤは、エルサレムの都会と違って、交通の便が悪く、情報が入らない、文化的に遅れている地方でした。イエスは早くからエリートが集中しており、人口の多いエルサレムに直接に行けば、彼の宣教の効率が上がっていたのにと、私たちは思うかもしれないが、イエスはいつも中央ではなく、辺境に立っている人々の所から始まり、宣教活動を行います。社会の底辺に降りて、貧しい人々に良き知らせを伝えた後に、経済と権力の中心である都会に向かって、上流階級の人々の生き方を揺さぶることにしておられます。

カファルナウムでまるっきりゼロから始まったイエスの宣教活動は、一体どんな活動だったのでしょうか。イエスは宣教司牧のプランを作ったとは思われません。イエスの宣教は挨拶から始まったのではないかと思います。この挨拶は、選挙の時に町を回り支持を訴え、頭を下げて「よろしくお願いします」というような政治家の形式的な挨拶ではありません。イエスは各家に入って、あなたがたに平和とか、神の祝福はあなたがたの上にあるようにとか言ったりして、特に「罪人」とレッテルを貼られている人々、差別の対象とされている女性た

ち、病を負っている人びと、人生がぼろぼろとなって深い傷を持っている人々に声をかけ、希望の言葉をかけています。天の国が近づいた。安心しなさい。神さまは遠い所にあるお厳しい方ではなく、あなたのそばにおられ、あなたの痛みを知って、慈しむ方でおられます。聖書の記録によると、こうしてイエスの挨拶を耳にした人々は、何となく心が明るくなり、立ち上がる力を感じて、元気になり、家族や共同体に復帰できたことがわかります。このイエスのわざは日本語で「奇跡」と呼ばれるようになってきたが、ギリシャ語の聖書では *exousia* あるいは *dunamoi* という言葉が使われていて、それは「権威」と「力強い業」を意味しています。イエスの言葉にある権威、イエスのわざにある力を感じていた人々が自信を取り戻され、病が癒されているような気がしていたわけです。またこのイエスのわざは、神の救いを待っていた当時の人々にとって、旧約聖書の中に預言されていた救いの「しるし」、ギリシャ語の *semeia* とも呼んでいたのです。

ところでイエスが福音を伝えていこうとしているうちに、一人のままでは何もできないこと、ご自分の限界を感じて、協力者を求めはじめています。ある日、美しいガリラヤの湖畔沿いの道を散歩したところ、漁師が網を打っているのをご覧になったと書いてありますが、イエスの頭の中に閃^{ひらめ}があったようです。網を打つものを見て、これからの教会の構想がイエスの心に湧き上がったようです。バラバラに生きている人を集めるには、がっちりした堅い組織ではなく、網のような柔軟な形のものが必要だと思いました。一人一人の個性を生かす網、目と目がぎっしりつながっていながら、多様性を生かすような網、広がっていきやすいような柔らかい網のような教会。ネットワークの発想が流行っている現代人にとって、魅力のある、わかりやすい、受け入れやすい教会のイメージではないでしょうか。イエスの持っている教会のイメージは、がっちりして出来上がった位階制度ではなく、神さまがこの世に投げ広げてくださる網です。そして私たちは、漁に参加することに招かれ、愛と信仰によってできる漁の網の作成に協力を求められています。この網は、通信のネットワークのように情報によってつながっているのではなく、愛と信頼によって心と心がつながっている教会の網です。

この教会の網を作るに当って、イエスがペトロを始め12人の仲間を呼び集めました。けっして立派で完璧な人ではなくて私たちのように弱い人間でした。イエスは一人一人の名前を呼びかけて選び、教会という新しい網をお作りにな

り、神の愛を広めていこうとする運動を発足しはじめたわけです。私たちはこの12人の使徒の仕事を受け継いで、社会の中に、人類の中にイエスと共に神の網を作り、網を投げかける召命を受けました。一人一人が、名前を呼ばれ、従いなさいと声をかけられて、イエスの招きを受けています。イエスが作りたい教会は、堅い閉ざされた組織ではなく、誰にでも開かれた兄弟の交わりに基づくものです。高円寺教会も回りの地域社会に教会のネットを投げかけて、回りにいる人々の餓え渇きに応え、神の愛を伝えて行きたいと思います。ミサの間にキリストを中心に互いにつながってきた私たちは、ミサの終わりに派遣され、福音の喜び、福音の希望を皆に伝え、言葉だけではなく、挨拶を持って、行動を持って地の塩、世の灯火となっていけたら幸いです。